

Psychic change and the movement between three zones of psychic functioning

心的変化と心的機能の三領域間の運動

講演者: Rudi Vermote, M.D., Ph.D.
会場: 高橋 靖恵 (京都大学/油山病院)
討論者: 北山 修 (個人開業/白鷗大学)
 松木 邦裕 (日本精神分析協会/京都大学名誉教授)
通訳: Dalrymple 規子 (桜花学園大学保育学部国際教養こども学科)

【概要】

フロイトの力動的無意識を超えた世界があるということは、私にとって発見だった。本講演では、特にこの世界に焦点を当てた精神分析実践へのアプローチを開拓する。このアプローチは、分化/未分化、あるいは有限/無限の区別という観点から心的機能を捉えるモデルに基づいている。

この区別は心的機能の三つの領域を大まかに示している。すなわち、1. 理性、2. 力動的無意識、空想、自由連想、夢見ること、夢想、3. 心の表象の外における機能、である。

まず第一に、これら三領域の特徴を説明する。第三領域は、精神分析ではあまり研究されていない。それに接近するにあたり、アジアにおいて何世紀にもわたって行われてきた心の研究の豊かさが、精神分析の持つユダヤ・ギリシャの背景に加えられる。

第二に、この無限/有限の区別というレンズを通して、主要な精神分析学派やいくつかの神経科学的知見を眺め、このアプローチが有効か否か、そして統合されるか否かを確認する。

第三に、説明した三つの領域内での、そして領域間のダイナミクスを探求する。これにより、心的変化の新たな見方が提供される。洞察(第一領域)とメンタライゼーション(第二領域)に加えて、いわゆる「深い」心的変化における、名づけることのできない第三領域の役割を研究する。

第四に、精神分析実践に与える稀有な臨床上の影響について論じる。第二領域(自由に漂う注意、夢想)から働くときと、第三領域(直観、空emptiness、純粹経験)から働くときの治療者の態度の違いを探求する。第三領域は言語性思考の外にあるのだが、精神分析実践における言語の特定の役割を、第三領域に焦点を当てつつ研究する(詩、行為としての言語、パラドクス、身振り、沈黙)。

本講演はビオンとウィニコットの仕事に依拠し、禅と英詩を活用する。臨床例も紹介する。

【演者紹介】

ルディ・ヴェルモート医学博士

ルーヴェン・カトリック大学名誉教授、ベルギー精神分析協会元会長、訓練分析家。特にビオンに関する著作で国際的に活躍、著書には、『Reading Bion』(Routledge, 2018)。